

近畿ブロック

## 1. プログラム詳細

### 【日程】

#### < 1日目 >

13:00 ~ 13:15	(15)	<b>開会</b> ・主催者挨拶:内閣府 交通安全対策担当参事官 金子 健 ・来賓挨拶 :和歌山県 環境生活部 県民局 県民生活課 課長 立石 和史 ・紹介、コーディネーター (一財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之
13:15 ~ 14:30	(75)	<b>講演</b> 「高齢者に対する交通安全の動機づけ」 千葉大学 名誉教授 鈴木 春男
14:30 ~ 14:40	(10)	<b>休憩</b>
14:40 ~ 15:50	(70)	<b>グループ討議</b> 1.子どもに対する交通安全活動における課題と対応 2.高齢者に対する交通安全活動における課題と対応 3.自転車に対する交通安全活動における課題と対応 4.交通ボランティア団体の運営における課題と対応
15:50 ~ 16:20	(30)	<b>討議結果発表</b>
16:20 ~ 16:30	(10)	<b>講評・閉会</b>

< 2日目 >

8:30 ~ 9:00	(30)	<b>受付</b>
9:00 ~ 10:15	(75)	<b>講演</b> 幼児の交通安全の指導法 「なぜを考える」交通安全指導法の開発 目白大学 こども学科・児童学科 非常勤講師 敬愛女子短期大学 現代子ども学科 非常勤講師 公益財団法人日本レクリエーション協会 理事 宇田川 光雄
10:15 ~ 10:25	(10)	<b>休憩</b>
10:25 ~ 11:25	(60)	<b>和歌山県3団体活動発表(20分×3団体)</b> 和歌山県地域交通安全活動推進委員協議会 会長 野上 泰司郎  和歌山県交通指導員会連絡協議会 会長 清岡 幸子  和歌山県交通安全母の会連絡協議会 教育班:神屋敷 久美、和中 多美、吉田 美佐 福田 彩子、木野 亜由美
11:25 ~ 11:35	(40)	<b>事例発表における質疑応答および意見交換</b>
11:35		<b>閉会・アンケート提出・解散</b>

## 2．講義等の記録

### 【1日目】

#### 講演

高齢者に対する交通安全の動機づけ

千葉大学 名誉教授 鈴木 春男

78 ページの東北ブロックでの講演録参照。

## グループ討議

### 1 - 1班

グループ名	1 - 1. 子どもに対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	登下校時の安全確保について（集団登校）
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路での立哨活動（ボランティア、自治会、PTA、老人会など）</li> <li>・幼稚園、小学校への交通安全教室の実施</li> <li>・地域性で歩道、ガードレールがある所を通学路とならない場合がある</li> <li>・大人の交通マナーに問題がある</li> <li>・一年生と一緒に通学路を歩き、怖かった場所を聞いてヒヤリマップを作り通学路の見直しに活用している</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域性があるので歩道、ガードレールがある所を通学路とならない場合がある</li> <li>・大人の交通マナーに問題がある（子どもは大人を見ている）</li> </ul>
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者向け交通安全教室</li> <li>・各団体（学校、地域、PTA、警察等）が連携して安全対策をする</li> <li>・1年生と一緒に通学路を歩き、怖かった場所を聞いてヒヤリマップを作り通学路の見直しに活用する</li> </ul>

### 1 - 2班

グループ名	1 - 2. 子どもに対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	子どもに対する交通安全活動における課題と対応
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の見守り</li> <li>・交通安全教室</li> <li>・警察や行政をはじめPTAや協議会、地域の企業など様々な団体と連携して子どもの命を守るために活動している</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に対しての交通安全教育</li> <li>・中学生などある程度大きくなった子ども達にどうやって教えていくか</li> </ul>
対応策	<p>地域性はある</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周りを巻き込んで繰り返し伝えていく</li> <li>・子どもが交通ルールを守らない親に注意するなど子どもから親へ発信できるような教育を</li> <li>・自分達だけで抱え込むのではなく、警察や行政など様々な団体と一緒に子ども達に命の大切さを伝えていくことが大切ではないか</li> </ul>

2 - 1班

グループ名	2 - 1. 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三世代交流（笑って学ぼう交通安全）</li> <li>・反射材をいかに普及させるか</li> </ul>
活動状況	<p>夏休み「老人会 子ども会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ体操実施（ 高齢者は参加賞があっても参加者は少ない）</li> <li>・紙芝居実施（ 子どもへ参加賞を渡す）</li> <li>・紙芝居はラジオ体操の前後にすると喜ばれる</li> <li>・祭りを利用して各年齢層へ交通安全啓発</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三世代交流で参加が少ない親の募集方法</li> <li>・保護者会の協力を得るには</li> </ul>
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが高齢者との身体的相違を理解し、信号待ちなどでいたわる気遣いができるようになる</li> <li>・反射材は渡すだけでなく、身に着ける使用度を多くする</li> <li>・高齢者の散歩には予備として電池を携帯させる</li> <li>・新一年生の保護者に交通安全教室を実施</li> </ul>

2 - 2班

グループ名	2 - 2. 高齢者に対する交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者宅訪問などによる安全教育</li> </ul>
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顔見知りでない訪問者は受け入れにくいので啓発品を持参して訪問</li> <li>・反射材（タスキ等）の使い方を普段のおしゃべり風に教えている</li> <li>・民生委員、警察官、自治会長の皆さんと一緒に訪問している</li> <li>・老人扱いを嫌がるので「お兄さん」「お姉さん」と呼ぶ</li> <li>・免許返納を勧めているが「生活の足」のためなかなか返納してもらえない</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報のため名簿が入手しにくい</li> <li>・免許証の自主返納</li> <li>・母の会と指導員の指導方法が異なりトラブル</li> <li>・よく話を聞き納得するが、終了後帰宅時には斜め横断をする</li> </ul>
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ネイバーフッドウォッチ」の実施（斜め横断の禁止を気づかせる）</li> <li>・反射神経テストなどで体力の衰えを自覚してもらおう事が大切</li> <li>・反射材を渡すのみでなく、その場で靴やかばんにつけてもらう</li> <li>・免許証の自主返納はバスやタクシーの割引など、特典（メリット）をたくさんつける必要がある</li> </ul>

### 3班

グループ名	3. 自転車の交通安全活動における課題と対応
討議テーマ	自転車
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車の乗り方 学校で実際の交通場面で指導</li> <li>・左側乗車を指導</li> <li>・小学生対象に見守り隊として活動(1.15.25は安全啓発活動)</li> <li>・小学1・2年生は横断、3・4年生は自転車、中学生へは法改正など指導</li> <li>・重点交差点で指導(1.15日)津波発生時の交通整理も指導</li> <li>・自転車保険加入やヘルメットの指導、学校での安全テスト実施</li> <li>・高齢者への寸劇、危険を安全に体験させる</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二人乗りが多い(特にイベント実施時)</li> <li>・小学校低学年の自転車マナーが悪い(特に放課後)</li> <li>・スクールゾーンに歩道がないので通行帯を整備が必要</li> <li>・中学生のヘルメット着用が少ない</li> <li>・自転車保険の加入が進まない</li> <li>・自転車に乗れない子どもへの指導が難しい</li> </ul>
対応策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール・マナー違反はその場で注意</li> <li>・危険を安全に体験させる</li> <li>・子どもと大人への指導も必要</li> <li>・保険未加入での賠償を理解させる</li> <li>・家庭の中から指導する</li> </ul>

### 4班

グループ名	4. 交通ボランティア団体の運営における課題と対応
討議テーマ	ボランティア員を集める方法と限られた予算内での活動方法
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要交差点や通学路における立ち番</li> <li>・子ども免許証や手作り啓発品による交通安全啓発</li> <li>・ゆかた祭りや交通安全フェアでの啓発</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの方が減少している</li> <li>・活動に関係する予算が少ない</li> </ul>
対応策	<p>募集方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各組織団体の魅力をいろいろな場でアピール</li> <li>・人を惹きつけるリーダーの育成(ボランティア員の魅力を引き出す)</li> </ul> <p>予算対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トラック協会や安全協会、警察、JAFへの協力要請</li> <li>・限られた予算内で手作りグッズなど工夫して啓発活動を実施</li> </ul>

## 【2日目】

### 講演

### 幼児の交通安全の指導法

### 「なぜを考える」交通安全指導法への開発

目白大学 子ども学科・児童学科 非常勤講師 宇田川 光雄

宇田川先生

皆さまおはようございます。

参加者

おはようございます。

宇田川先生

まず私たちは、何か毎回同じことを、同じほど言って、毎回同じことをします。同じことを繰り返す学習はとても重要です。小さい子にとって交通安全の標識を見ることができたことはとても大事です。だけど、いつもそればかり、またあれ？また？というように言われちゃうことがあるのです。「困ったなーというふうに思って色んなこと」を考えられておられる人が居ると思いますが、重要なことは何かと言いますと、集団が成長するということなんです。子どもたちの集団は必ず、日々新たになっていくということなのです。この講座も、どんなことがあったかということのをちょっと思い出してみましよう。

第1相は、遠慮・躊躇・ためらいの相。

皆さんがここに昨日お集まりになった時には、誰かしら？と周りを気になさったと思います。つまり、最初から自分をオープンにして、人と関わるといのはそう容易いことではないのです。遠慮・躊躇・ためらいのある相。これをずっと続けていると、成長しないので、少しお酒を飲んだり、なんやかんや言うと、ああ、あの人って面白いわっていうようになり、第2相に移行するのです。そこで、私たちは、なぜここに集まって来たの？という目標・ねらいを共有することができてきます。

でも皆さんはここに来る前に、積極的に人と関わろう、そしてこの目標を達成しようという目的を持って来られているのです。だけどこれからが大事なのです。持っている人は、おお、そうか。ほー。ほー。と言って帰ってしまうと、これでおしまいです。

次の段階、第3相。これが大事です。これが昨日の事例発表であり、今日の講座ということなのです。お互い思っているものを出し合う。でも好き勝手に喋っているのでは仕事になりません。

そして、第4相。ここが重要です。建設的な意見。チャンチャチャーン。というわけです。つまり、5つのテーマに基づいて何か新しいアイデアはないだろうか。今まで活動してきたことの発表も大事ですけども、こんなことが発見できたという建設的な意見を。

今日、私が70分間お話しさせていただきますが、帰ったらあの時良かったわと思っただけでは長続きしないのです。そこで大事なことは、私たちのグループって素敵じゃない？そういうグループができて、話そうと連絡を取り合って絆ができていきます。これが第5相です。そして、あなた連絡係。というような役割がうまれてくると、このグループは固定していきます。

さて、そこで、この遠慮・躊躇・ためらいの時は何が大事か言うと、同時発生、同時動作をして、みんなと同じことするのです。みんなで作っていきましょう。では両手を前に出して、この出し方で若さが分かりますね。肘がピンと伸びている人が居ますね。若さですね。片方を握ります。握った方をお腹にもってきて、パーが前でおなかグー。これを変えられることができると、40代の若さと言えます。せーのと言いますから、「えい」と言って変えてみましょう。「せーの」。

参加者

えい。

宇田川先生

素晴らしい、せーの。

参加者

えい。

宇田川先生

せーの。

宇田川先生

えい。

宇田川先生

これは誰でもできるのですよ。今度は握った方を前に残しておいて、パーをお腹に持ってきます。そのポーズをとってください。これができると 30 代。若干危なそうな人が居ますね。ではパーをお腹にどうぞ。「せーのよ」「えいよ」「ほらよ」「あら?」「せーのよ。声も出なくなっちゃった。「せーのよ」「せーのよ」「せーのよ」……………。

こうやってる時に、1 回拍手入れてみましょう。子どもたちが横断歩道を渡る時に、二つのことをしなくちゃいけませんね。信号は青。そして車が来ない。これ二つのことをするのを協応動作と言いますが、これが難しいんだ。やってみましょう。前がグー、おなかがパー。拍手が 1 回。せーの。えい。せーの。せーの。はい。うまい。せーの。よいしょ。せーの。よいしょ。うまいですね。じゃあお隣の方と 3 人なり 2 人なりちょっと向かい合って。では 1 回拍手して、せーの。よいしょ。

宇田川先生

では元に戻ってください。見つめるとか、触れるとかってということがとても重要なんですね。こういうことを通じて、そして隣の人と関係を持っていただく。挨拶の後に子どもたちとこんなことをやってみたら、子どもたちは皆さんのことに集中するということなんです。そして集中したら、今日は何のために来たんだっけ? そうだね、信号機のある道をどうするかっていうことだったね。というふうに目標を言って、子どもたち同士の意見を出してることが重要です。その時に私は今日皆さんに問いかけたいのは、「なぜ」です。「なぜよ」ということを子どもたちに積極的に問いかけましょう。

でも、「なぜ」って言っても、子どもたちは何だか分からないので、具体的に聞いてあげようということです。劇を見たり、劇の中に交通安全の大事なことが出てきたりして、それを振り返ることを通じて子どもたちと一緒に学んでいこうということです。

「なぜ」というのをキーワードにしながら進めていきたいと思います。

もう少し、見つめる、触れる、こういうことをやってみましょう。(いくつか展開する)

宇田川先生

(信号機を模したペープサートと取り出して見せる)

皆さんと遊んでみましょう。

アンパンマンが登場しました。子どもたちに人気のアンパンマンです。アンパンマン、カ

レーパンマン、メロンパンナ。(と手でアンパンマンやカレーパンマン、そしてメロンパンナの形を作る)

アンパンマン、アンパンマンと言って私が、メロンパンナかカレーパンマンにしますから、皆さんもどちらかのポーズを取ってください。一緒になったら気持ちがあってきたということです。いいですか？

はい、アンパンマン、アンパンマン、メロンパンナ。良いですね。アンパンマン、アンパンマン、カレーパンマン。アンパンマン、アンパンマン、カレーパンマン。アンパンマン、アンパンマン、バイキンマン。(バイキンマンを急に出して問う)このバイキンマンが出てきたらどうするか、皆さんは私を助けてください。皆でアンパンチとパンチでやっつけます。動作が違いますよ、やってみましょう。アンパンマン、アンパンマン、バイキンマン。

参加者

アンパンチ。

宇田川先生

うまいですね。アンパンマン、アンパンマン、バイキンマン。

参加者

アンパンチ。

宇田川先生

アンパンマンをひっくり返すとあら？あらら、あらら？あららら、何ですか？

参加者

信号機。

宇田川先生

信号？本当ですか？えー？これ信号ですか？赤の位置って？そうですよ、赤の位置の違いですよ、青が違うよね。え？じゃあこう？じゃあなぜこうなの？

なぜでしょうね。こちらに柱があって、向こうに木かなんかがあると、見えないからこっちに側にあるんだよ、と子どもたちは言うのです。

宇田川先生

今日は、この後ペープサートというのを見ていただいて、この子どもたちの気持ちになって考えてみようと思います。ペープサートというのは、こういう棒に竹串をつけて裏と表があるだけなんですけど、こんなものを使った劇を皆さんにお見せして、そこで資料に書いてあることを今日はグループで考えてみようというわけです。

登場人物はウサギ、サル、タヌキ、鬼、おばあさんの5人が出です。この5人の良いところってどこかな？というのを話しながら、書いてある質問に答えていきます。

子どもたちに見せた時、どうして失敗しちゃったのかな？と子どもたちに問いかけたら、子どもたちは、「先生、練習しなかったから」と言うんです。この言葉に私はドキっとしまして、「ああ、練習しなかったから、みんな運動会の前には練習するよね。だから今日は一生懸命練習しようね。」と言って信号機を見て渡る練習をいっぱいするのです。

宇田川先生

では、皆さんに見ていただきたいと思います。前の方までズズズッとお進みいただくと有り難いんですが、紙人形劇、日天さんに月天さん。はじまりはじまりー。

「ある日、森の中、クマさんに、出会った」と歌いながらタヌキとサルがやってきます。

「ねえ、タヌキ君、うん？なんだい？ほら、ウサギさん来ないよ。」「あ、本当だ。2人で呼んでみようか。」「うん呼んでみよう。ウサギさーん」

「昨日出会った小さなウサギ、名前はバニー、オーイー！」

「何がオーイーだよ、ウサギさんどうしたんだよ」

(とウサギが登場して、3人はクマさんの病気見舞いに行くことにしました)

「あの峠の上にね、鬼が出るんだって。」「え！鬼？、だけどさ、僕たちさ、今日ツバメさんにクマさんのお見舞いに行くって伝えてもらっちゃったし、どうしよう、どうしよう、どうしよう。(と3人は悩みます)

「あ、そうだ。魔法使いのおばあさんに聞いたら何か教えてくれるかもしれないから、3人で呼んでみようか？」「うん、呼んでみよう、呼んでみよう」

「おばあさーん、おばあさーん」

「3人の声じゃ聞こえないみたいだ。よーし、みんなにも手伝ってもらおうか。」「せーの」

参加者

おばあさん。

宇田川先生

「おやおや、誰かな。あ、お前さん達かい？ お前さんはいつも仲良しで結構じゃな。」おばあさんこんにちは。」はい、こんにちは。」

「あいさつのできる良い子達だこと。今日はまた何の用かな？」

「あの一、僕達、クマさんのとこ行きたいんです。」

「でもおばあさん、僕達行けないんです。」おやまたどうしてだい？」「峠の上に鬼が出るんです。」

「そりゃ困った。良いこと教えてあげましょう。大きな声でな、日天さんに月天さんと言っごらん。」おばあさん、その、日天さんに月天さんってなんですか？」

(ウサギやってみる)

「日天さんに月天さん、日天さんに月天さん。」おばあさん。ウサギさん消えちゃったよ。」日天さん月天さんって言うて姿がパッと消えるんじゃよ。」日天さんに月天さん、日天さんに月天さん。」(と云って姿を消す)「おばあさん僕達消えちゃったよ。」「そうやって姿を消したら、鬼も食べないじゃろう。」

「だけどおばあさん、このまま行ったらクマさんびっくりしちゃうよ。どうしたら出られるの？」「出るのかい？出るのはわけないよ。大きな声でな。おとぎ峠に星が出たと言っごらん。」と元に戻る呪文を教えてもらい、おばあさんに知恵を借りて 3 人バラバラで峠に向かいました。

「鬼 鬼だ！自分で言っているから間違いない。近頃はわしがここに居るのを知っていて誰も通らない。あ、何だ。ピョンピョンピョンピョン跳ねてくるぞ。あ、ウサギだな。よし、この岩陰に隠れて待つことにしよう。皆さん、わしがこの岩陰に隠れていることを言わないでくださいよ。」

「いやーここが峠の上だぞ。よし、あ、今日は鬼が居ないじゃん。さあ、通ってしましましょう。」

「鬼だぞ。あいたたた。助けてください。」何だったっけな？あのおばあさんに教わった。そうだそうだ、思い出した、思い出した。「に、に、に、に、日天さんにが、が、が、月天さん、に、に、に、日天さんに月天さん。」

「口の中でなんかモゴモゴ言ったら影になって行っちゃったぞ。はは。ウサギの次はサル

がくるな。ようし、ウサギは逃がしたがサルを食えば腹一杯になるよ。

(サルも峠の上で鬼に遭遇し呪文を唱える)「日天さんに日天さん。日天さんに日天さん。日天さんに日天さんよ。(続いてやってきたタヌキも・・・)」「月天さんに日天さん。月天さんに日天さんよ。(お婆さんが登場して鬼と対面する)

「やれやれ。どうにかこうにか3人は自分達の力で無事に通って、良かった、良かったよ。

「なっ、なんだ。やっぱりばあさん、お前が教えたんだなよ。」「はいはい、教えましたよ。ただ日天さんに月天さんと教えただけですよ。」「姿がパッと消えるんじゃないよ。」「ええ？俺みないなでかい体も消えるのか？」「そりゃ面白そうじゃない。やってみようかなよ。」「日天さんに月天さん。日天さんに月天さん。日天さんに月天さん。」「はっはっは。おい、ばあさん面白いなよ。」「ところでばあさんや、どうしたら出られるんだ？」

「お前のような悪いことばかりする鬼は出してやりませんよ。」「え？出してくれない？助けてくれー。助けてくれー。」「心を改めて、良い鬼になったらまた出してあげますよ。(お婆さんは3人の姿を見つけ、追いかけていきます)

「おとぎ峠に星が出たよ。と言って元に戻る。

「さあ、みんなクマさんのところ行ってないでしょう。じゃあ元気よくクマさんのテーマソングを歌いながら出発進行！ある日、森の中、クマさんに、出会った、花咲く森の道、クマさんに出会った。花咲く森の道、クマさんに出会った。(紙芝居終わり)

宇田川先生

おばあさんはなぜ最初に3人と一緒に行かなかったのでしょうか？(考えてもらう)

自分のことは基本的には自分で身を守るということを子ども達につけたいですね。自分の力で鬼の前を通過する自分の力で道を切り開いて行くことこそ、一番大事なことです。そのことをほっといてはいけないので(超能力のおばあさんは居ないですが)、用意周到して子ども達の持っている力を引き出してあげることができないかということです。そのためには、「なぜ？」ということと一緒に考えようということです。

宇田川先生

それで今、机の上に赤と緑のひもがありますので、それをちょっとだけやって、終わりにしたいと思います。赤と緑のひも、一人1本ずつですね。もうこれお分かりですね？

赤信号と青信号という意味です。是非この手品を子ども達の前でやってみてください。赤信号の中にこうやって通すだけです。そしてこうやって赤信号を持ちます。で、この緑を引

っ張っているうちに、いつの間にか、いつの間にか、え？ね？こうやって引っ張ってるうちにいつの間にか、いつの間にか、変わるんです。(2本のひもを使って手品を実演)

参加者

あー。

宇田川先生

二つの信号、みんなが渡る信号はどっちかなー？あ、こっちかなー？うーん、あ、こっちかなー？赤信号、うわー、あら？ということですね。

そしたら皆さんは知恵を働かして。黄色を加えると、赤、黄、青の信号になりますので、家で黄色の毛糸を1個見つけていただいて、お作りください。赤と緑でどのように変わるかは、みなさん同士で教え合いしましょう。うまく変わった人に、休み時間に聞いていただきたいと思います。

今日はなぜということの重要さを皆さんにお伝えしたかったんですね。なぜ3人は一緒に行かなかったのか？

リーダーが居なかったりするとこのようになってしまうかもしれません。

「なぜ一緒に行かなかったのかな？」

「なぜ失敗しちゃったのかな？」と問うと、子ども達は「練習しなかった」とか、きちんと答えてくれます。

また、「鬼が居るところなんか行かなくて良いじゃないか」というような子どもも出たりしてきます。

だけでも3人で行かなかった理由のうち大事なものは、自分の命は自分で守るという意識です。

一人ひとりが自分でちゃんとクリアできることの大事さを教えている劇でもあるということ。

一人ひとり、みんながやっているから行く、じゃなくて、自分としてどうするかということの大事さを理解して行動するということが大事だということです。

ぜひ頭に入れてください。

この後の講義を密に進めていただくことを期待して終わりたいと思います。

ありがとうございました。

## 和歌山県3団体活動発表

### 和歌山県地域交通安全活動推進委員協議会 会長 野上 泰司郎

改めて、皆さん、おはようございます。

宇田川先生が、次の発表の方は最初に、えい！と言ってくださいと言っていましたので、言いましょうか。せーの。えい！（笑声）。というように、楽しく活動をさせてもらっています。我々、地交推と言うのですけれども、私の所属するところは、正式には和歌山東地域交通安全活動推進委員協議会です。

先程延長するかも分からない、と最初から言ってくれましたので、延長するかも分かりませんが、皆さん色々なデータをご存じだと思いますので、余りデータの細かい話はいたしません。それ以外に、和歌山にいられて覚えて帰っていただきたいことをお話しさせていただきます。

（パワーポイント）

この書いてあること、読めますか。和歌山弁です。「みんな～よ、和歌山ってどこにあるか知っちゃある？」という言い方をするのはですけども、昨日も懇親会の席上で、こんな言い方をしました。分かってくれる人は分かってくれましたので、分かってくれる方だけで結構ですが、和歌山の良いところを紹介いたします。

（パワーポイント）

11月5日、世界津波の日となりました。これは和歌山の広川町というところで、濱口梧陵という偉い方が安政の大地震、1854年やったかな、そのときに、安政大地震で津波が来るぞということで、皆さんに知らせたのですね。取れたての稲、まだお米が精米される前の稲を燃やしたのです。それを燃やしたために皆さんが助かったと。世界津波の日が11月5日になったのは、その日なのですね。その時に、この人は立派な人やということで、その記念館が広川町にあります。

そして今年話題となった真田幸村、幸村の真田庵が高野山の麓九度山にあります。それ以外はもう古くからある名所です。ここに載せていないのですが、今年の10月24日に熊野古道の追加登録。その熊野古道を歩くのに何年かかるだろうというくらい距離が長いです。

（パワーポイント）

突然ですが、和歌山には川がたくさんありますが、皆さん、和歌山にいられた時に最初に渡った川は多分紀ノ川になります。「紀ノ川は濁っていないのをご存じですか」と書いていますけれども、皆さんの頭の上にクエスチョンマークが乗っているように見えます。有田川、日高川、富田川、日置川、古座川、熊野川、全部「がわ」ですね。紀ノ川だけ「き

のかわ」と言い、濁っていないのです。もっと大きな声でみんなびっくりしてくださいよ（笑声）。今日は皆さん近畿各地から来ていただきましたけれども、皆さんのお近くに濁っていない川はありませんか。京都の方は鴨川とか桂川とか、大阪やったら淀川とか、濁っていますよね。

（パワーポイント）

和歌山県の人口、これは約10年で1割ぐらい減り、100万を割りました。今、96万ぐらいになっております。その中で、65歳以上の高齢者人口は30万566人。これは去年の国勢調査だと思いますが、その中の高齢化率で31.3%。自慢できるかどうかわかりませんが、近畿で1位です（笑声）。全国で5位らしいです。トップは多分秋田だと思うのですが。

高齢者人口が多いということは、高齢者の事故が増えている、こういうデータがあります。こういう高齢者の人口が増えるのを防ぎたいなということで、データがありますが、データは余り細かく説明しません。皆さんも多分ご存じだと思います。

（パワーポイント）

我々の活動は、高齢者世帯訪問による安全教育啓発、反射材貼付、活動の推進、こういう活動をしております。地域交通安全活動というのは今のほとんどのことを言っていますが、全国で1万8,297人。これは今年の4月現在です。平均年齢は65歳。というのは、75歳で一応我々としては定年という形をとっております。経験6年以上が59%ですが、まだ経験が浅い方も少々おられますけれども、これからも色々勉強していただいていると思っています。

（パワーポイント）

活動内容は、活動重点に沿った活動の推進、駐車違反、違法駐車 of 警告活動、それから、色々な団体とタイアップして活動をやっております。

（パワーポイント）

交通事故の発生状況は皆さん多分ご存じだと思います。だんだん減っております。これの減っているのは、和歌山市の和歌山東警察署が減っています。減っているのは我々の活動のお陰ということをご偉そうに言わせていただいています。そうでないとやっていただけませんか（笑声）。ある部分では恩を着せていますけれども。交通事故はそれ程減ってはいないと言う方もおります。ただ、その減っていなくても減ってくれていたら嬉しいかなと思っています。

（パワーポイント）

高齢者の事故は、こういう形があります。

(パワーポイント)

色々な活動をしている中で写真を撮っていますので、その中で皆さんに見ていただきたいものは、過去の活動も含めております。私は和歌山県の会長もさせていただいていますので、各市町の色々な写真もいただいております。

(パワーポイント)

これは世帯訪問の活動、普及促進活動。

(パワーポイント)

子ども達に紙芝居、約10年前から行わせていただいています。昨日のグループ活動の中でも話させていただきましたけれども、子ども達に対する交通安全のというのは、もちろんのことだと思います。

夏休み、ラジオ体操に6時半頃集まりますが、その後、紙芝居を見ていただいて、その内容に基づいて、今日は一旦停止、「止まれ」という標識を話し合ったね、この夏休み中は「止まれ」のところでは必ず止まろうねという話をします。子ども達にも聞きます。どんな話だった?と。子ども達も納得してくれます。

(パワーポイント)

その次には啓発活動の写真です。今年はスーパーマーケットの前、交差点で行いました。

(パワーポイント)

これは反射材があれば危なくないなという、夜間の見えにくさの実験です。これは年に1度、高齢者の方々、各自治会の方々に集まっていただいて、実際車に当たりそうになるところまで行います。

(パワーポイント)

広報啓発活動等々。これは地交推の小冊子、リーフレットです。

(パワーポイント)

ここからが「笑って学ぼう交通安全」、我々が一番重点にしている、去年の2月に行われた交通安全教育の普及の中で近畿管区の各県から選ばれた方々のコンクールです。和歌山県では予選という形を5回ほど行い、去年は私が優勝できました。ただ、「笑って学ぼう」というのはなぜか。高齢者の方々の集まりに行かせていただきますが、少しでも面白いことを言うと集中してくれ、内容を覚えて帰ってくれるのです。

最後に言います。「安全教室の帰りにも気を付けてよ。もし事故に遭ったら新聞に載りますよ。」と。安全教室の帰りに事故、が載ったら嫌ですよ。やっぱり気を付けたい、

こういうお話。私も一応漫才をしています、今はうちのメンバーでは女性陣も色々やってくれています。私らよりも面白くやってくれます。

話の中に出てきませんので説明しますけれども、嫁姑バージョンという歩き方のお話です。内容的には流しますけれども、わからないかもわかりませんので説明します。お嫁さんとお姑さん、両方ともほとんど同じ年ですけれども、なり切ってやります。聞いている方は、姑さんの立場だったら、あ、私、そうなるかも思ってくれるのです。

お嫁さんの立場の方でしたら、あ、そうかもしれないな、お母さんに気を付けるように言わないと思ってくれると思うのです。交通事故に遭わなかったら交通事故が減るかなと。我々の使命は交通事故をゼロにするということですよね。ゼロになるか分かりませんが、できれば減らしたいと思っています。少しビデオを流させていただきます。

(ビデオ)

一部分だけで、少し内容的に聞き取りにくいかも知れませんが、こういうことをやっているということをお知らせしたかったのです。

(パワーポイント)

次に、あるところの食事会でのデビューです。この半年ぐらい前から、隣の相方と、面白いことをやった方が受けると。一遍漫才やってみるか、ネタ考えようかと。このネタを考えるの、誰が考えますか。言って良いことと悪いことがありますよね。だから、それに気を付けて、チェックしてもらったりしてネタを作り上げました。

人前で話すというのが苦手で、顔が多分引きつっていると思います。冗談も言っていますが、冗談に聞こえないぐらいの言い方をしているかも知れませんが、しかし、最後まで、15分か20分ぐらいかかったかも知れませんが、皆さん途中であいづちをくれるのです。お聞きください。

(ビデオ)

というパターンで、最後にオチついたところで終わりたいと思います。こんな活動をしていますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。ありがとうございました。

## 和歌山県交通指導員会連絡協議会 会長 清岡 幸子

皆さん、こんにちは。色々不都合があるかも知れませんが、お許してください。

(パワーポイント)

私達は、和歌山県の一番端、三重県とのお隣の町で小さな市ですけれども、そこから、子ども達の幼児教育、安全教室を毎週行っております。そして、各小学校低学年、幼稚園、

保育所、市内全域に渡ってこのような活動をしておりますが、まず、保育所、幼稚園へ行って、ご挨拶申し上げます。その時に、これから行う交通安全教室の内容、重要なポイントなどいくつか出てくるので、それを守って欲しいと呼び掛けております。

(パワーポイント)

今日も実は他のメンバーが保育所へ、只今丁度活動している最中だと思えます。これは交通安全教室に参加する子ども達ですが、子ども達がこうして参加してくれるのです。

(パワーポイント)

寸劇で「みぎみぎどっち？」をやっていますが、これは交通安全教室を行うに当たり、大変重要になってくるという右手を子ども達に印象付けるため、メンバーにピアノを弾ける方がおりますので、それで演奏とともに歌に合わせて演じる交通指導員達です。

(パワーポイント)

園児も教員も参加する形で、「みぎみぎどっち？」という寸劇を歌に合わせてやっております。

(パワーポイント)

寸劇「信号物語」です。交通指導員が赤、黄、青、3色の信号に扮して、時折園児に対し質問を行いながら、各色が持つ意味について説明しています。先程の先生のお話の中にもありましたように、信号の順番とか、赤、青、黄の順番なども違えて出てくるのです。そして、子ども達がそれに気が付いて、順番が違うということを書いてもらいますが、その間違いを指摘してもらって、私達はその順番を入れ換えるわけです。そして、正しいかどうかを ×で答えてもらいます。その時は園児達がとても生き生きとして、元気一杯に答えてくれます。

(パワーポイント)

園児の回答を受けて正しい並び順になった状態で、写真は交通指導員が扮する信号が正しい並び順になった状態で、ここから信号機の各色の意味について説明していきます。

(パワーポイント)

各信号の横断歩道の渡り方について実演、子ども達にお手本を見せるわけですね。そして、信号機の各色のときに、横断歩道を渡っても良いのかどうかを質問しています。昨年、ロータリークラブ、ライオンズクラブなどをお願いして信号機を寄附していただきまして、立派な信号機を使いながら実施していますが、信号機のところに合わせて横断歩道を渡って、写真は青信号の時に横断歩道を渡る際の説明をしており、ここから黄信号、赤信号の説明に入ります。

(パワーポイント)

写真は、次に行く飛び出し事故の再現の前に、「止まれ」の交通標識を説明しているところですが、この他にも、横断禁止、踏切などの説明も、何分子ども達が小さいものから、一番大切なことを中心にお話ししています。

(パワーポイント)

一番分かってほしい、守ってほしい飛び出し事故の再現をやっています。ボールなどを追いかけて飛び出した子どもと自動車が衝突というケースを再現するのですが、大変リアルに演技する。子ども達はショックを受ける、びっくりするんです。そういうことをやりながら、なぜ事故が起きたのか、何がいけなかったのかを園児達に質問して、また、どうすれば事故を防ぐことができるのかを説明しているところです。このような事故に遭わないためにも、飛び出しをしてはいけないことを園児達に何回も繰り返し呼び掛けております。

(パワーポイント)

園児に横断歩道を渡ってもらう前に、交通指導員の私達がお手本として、右を見て、左を見て、もう一度右を見て、車が来ないことを確かめてから渡るということを実演しております。その時に、手を高く上げるのはどうしてかとか、先程も先生からご説明がありましたように、全くそのとおりに実践しております。

(パワーポイント)

交通指導員とともに園児達も横断歩道を大きく右手を上げながら渡る練習をしていただきます。これは全園児にさせていただきますが大変盛り上がります。

(パワーポイント)

自転車を運転する前の点検事項をパネルを使って解説しておりますが、自転車の点検箇所を描いたパネルを使用して、各箇所の役割を説明しながら、幼稚園の自転車を拝借して、実際に乗っている、只今使っている自転車を見せてチェックします。自転車を押し、パネルに描かれている箇所の点検を行い、それぞれの役割について説明しながら進めてまいります。

(パワーポイント)

自転車を運転する際のサドルの高さについてパネルを使用しながら説明しますが、パネルは自転車を止めた状態で、足のどこの部分が地面に着くようにすれば良いかを表しております。大きなこのパネルで、足の形で赤く示しておりますが、その部分が着くようにということを説明します。そして、パネルのように足が地面に着いていない、届かない場合

はサドルの高さを調節するように呼び掛けております。体に合った自転車に乗るようにということをお願いしております。

(パワーポイント)

自転車を運転する際に、自転車の左右どちら側から乗り込むかを説明しているんですが、昨日も自転車の班で、どちらから乗るか、どっちでも利き足、利き手があるので、右から乗る人、左から乗る人、大人になっても直っていない人もありますが、なぜ右から乗ったらいけないかということを実験的な点を実際に実演しながら説明しております。

(パワーポイント)

自転車教育の終わりに、運転する際はヘルメットを着用するように呼び掛けております。自転車はヘルメットを被らないと危ないよと。そして、無い子はお家の人に買ってもらってくださいねとお願いしております。

(パワーポイント)

途中でライオンズクラブから寄附していただいたDVDを上映するのですが、「アラジンと魔法のランプ」とか色々アニメがありますので、子ども達はちょっと退屈してくるわけですね。その時に、このアニメとかDVDを見せると、とてもまとめ的に良いかなと思います。道路の歩き方や横断歩道の渡り方、交通標識の意味、踏切の渡り方など、まとめてDVDでおさらいをしてくれております。

(パワーポイント)

最後に、マジックショーというか、とても喜ぶます。そして、信号と同じ3色のスカーフを使って手品をして、繰り返し答えてもらう。そして、ひもに結んで、赤、青、黄とハンカチを結びますが、それを先生に出てきてもらって結んでもらいます。それで、それを集める、そういう手品なんです。ところが、その先生方が、今まで一生懸命信号のお勉強をしたのに、わざとなんでしょうね、順番を間違えて縛るのです。そこで皆、また子ども達が「先生、違う」とか言って大変盛り上がり上がりして、そして終わりとなります。

(パワーポイント)

最後に、「一番大切なお約束をしましょう。何やったか覚えている？」と言ったら、ほとんど覚えていないのです。でも、中には1人か2人、必ず、「飛び出したらあかんでしょう」とか、それで、「そうや、飛び出したらいけませんね。もう一回お約束しましょうか」と最後は終わらせていただいております。

子どもたちはそんなに約束してでもやっぱり覚えていないんよね。それを私たちが繰り返し繰り返し、「また同じことしはるで」と言われますが、そうして繰り返すことが大切

かなと感じています。皆さんもまた色々なご活躍をなさっているでしょうけれども、子どもたちの安全を守っていただけたら嬉しいなと思います。

## 和歌山県交通安全母の会連絡協議会 教育班

( 神屋敷久美 和中多美 吉田美佐 福田彩子 木野亜由美 )

皆さん、こんにちは。私たちは和歌山東地区交通安全母の会・教育班の者です。

普段は小学校を中心に交通安全教室を行っております。いつもは生徒がもっと近くにいますが、今日はちょっと皆さん遠いので、後ろの方は見えにくいかわかりませんが、ご了承ください。今日は皆さん、小学校低学年になった気持ちで私たちの話を聞いていただけたらと思います。

おはようございます。皆は学校の行き帰り、車に気を付けて歩いていますか。飛び出したりはしていませんか。今日は皆のたった1つしかない大事な命を自分で守るためのお話をします。

これ見たことありますか。信号ですね。今、信号が赤です。この信号の意味は何ですか。

はい、止まれです。信号は止まれ。絶対に渡ってはいけません。でも、周りに誰もいなくても、向こうからお友達がおいでと呼んでも、お母さんが、早く行こうと言っても絶対に渡ってはいけません。必ず守ってください。

では、次は何色に変わりますか。黄色かな、青かな。では、正解です。青ですね。この青信号、向こうに横に3つに並んでいる信号は車やバイクが見る信号です。そして、縦2つに並んでいる信号は人や自転車が見る信号です。時々この縦2つに並んでいる信号がないところがあります。その時は横3つに並んでいる信号を見てください。

今、青ですが、青の信号の意味は何ですか。進め。はい。青の信号は安全を確かめたら進んでも良いと覚えてください。青になったからといってすぐに走り出してはいけません。用意ドン！なんかで友達と一緒に走っては絶対駄目ですよ。まず、青になったら車が止まって、右を見て、そして左を見て、もう一度右を見て、車が止まっているのをちゃんと確認して渡るようにしてください。

では、次は黄色ですね。この人や自転車が見る信号は黄色じゃないです。青色がチカチカと点滅しています。これは黄色と同じ意味になります。黄色になったら、もう赤になるよ、危ないよと教えてくれています。まだ横断歩道を渡っていない時は、渡らないで次の青信号になるまで待ってください。そして、もし渡っている途中で黄色になったら、その時は自分が近い方に渡ってください。走らなくても良いです。皆が渡って良いのは青信号

の時だけです。覚えてくださいね。

次、道路のお話をします。歩道のない道で、朝皆が学校に行く時、どこを歩いていますか。左側かな、右側かな、真ん中かな。みんなどこを歩く？ はい、右側ですね。正解です。どうして右側？ それは交通ルールで、人は右側を歩いて、車は左側を通ることになっています。

でも、右側を歩いているからといって、お友達とおしゃべりしながら2列、3列に広がって歩くと、前から来る車にひかれて、危ないです。必ず右端を1列になって歩くようにしてください。そして、向こうからお友達が、おーい、おいでと呼んだら、そのまま渡っていませんか。道を渡りたいときは、横断歩道のあるところまで行って渡ってください。

では、この道を自転車で走る時は、どこを走るかな。自転車はタイヤがあって、車の仲間です。自転車で走る時は左側を走ることになっています。それでも自転車で友達とお話ししながら走っていると、後ろから来る車にひかれることがあります。危ないので絶対に駄目です。また、片手運転もしてはいけません。

歩道のある道に来ました。歩道のある時は、皆はどこを歩きますか。歩道の中を歩きますね。では、このマーク、知っているかな。このマークは歩道のところにあります。このマークがある時は歩道の中を自転車が走っても良いことになっています。このマークがなくても、小学生の皆は歩道の中を自転車で走っても良いです。

そして、歩道は歩く人のための道なので、小さい子どもを連れのお母さんや高齢者の方、色々な人が歩いています。自転車で歩道の中を走る時は、いつでも止まれるスピードで、車に近い方の端っこを走るようにしてください。急いでいるからといって、どいて、どいて、チリンチリンチリンと、危ない走り方はしていませんか。そんな人が多いところでは、自転車は降りて押して歩くようにしてください。

そして、この横断歩道を渡る時、ギリギリのところでは待っていると、車に巻き込まれて大変危ないです。必ず2歩か3歩下がったところで待つようにしてください。自転車も同じです。同じように下がって待ってください。そして、信号があってもなくても、この男の子のように右手を大きく上げて、右を見て、左を見て、車が止まっているかちゃんと確認してください。もう一度右を見て、また後ろを見て、手を上げて安全を確かめて渡るようにしてください。自転車も同じです。

では、このマーク、知っていますか。これは踏切のマークです。踏切では自分の目と耳で電車が来ていないか、自分で確認をして渡るようにしてください。そして、自転車は滑って転んだりすると危ないので、自転車をおりて押して渡るようにしてください。

次、自転車の話をします。皆さんはいつもどんな自転車に乗っていますか。大人用の自転車だとか、お兄さん、お姉さんの大きな自転車に乗っていないですか。ちょっと貸してもらおうなんて、止めてくださいね。自転車は必ず自分の身長に合ったもの、こうやって自転車にまたがったときに、足、爪先が着くものに乗ってください。良いですか。そして、自転車に乗る時にはヘルメットも必要です。頭を守るための大切なものなので、必ず被ってください。今ない子は、おうちの人に用意してもらってください。

そして、自転車に乗る前にしてほしいこと。まず、自転車点検というのがあります。この自転車点検は、何をしたらいいのかな。難しいと思うので、「ラブタベル」という合い言葉を作ってきました。この「ラブタベル」のラをまず見てください。「ラ」はライト、反射材のことを指しています。ライトは前にありますね。暗いところでは必ず点けるようにしてください。今は自動で点くものがありますが、必ず点けてくださいね。

そして、反射材はどこにあるかということ、タイヤの後ろのところ、ペダルのところにも着いています。あと、自分で付けられるものもあります。それはタイヤのところのスポークです。これは自分でも取り付けられます。こういうのを付けていると、遠くからのバイクや車から見ても、あそこに自転車が走っているんだということが皆に分かってもらうことができます。

そして、今度は「ブ」ですね。ブレーキ。必ず両手でかけるようにしてください。片手だけで止まることはできません。だから、両手で必ずかけてください。正しいかけ方は、親指をハンドル、あとの4本の指はブレーキにかけるようにして、ギュッと握ってください。これが間違った持ち方をしていると、もしコケた時とかバランスを崩したら、指を挟んで事故になる前に大怪我をするかもしれません。だから、必ず正しい持ち方でブレーキをかけてください。

次は「タ」ですね。タはタイヤの空気の点検をしてください。タイヤは両手の親指で押してもらったら分かりますよね。もしこれが抜けているとバランスを崩した時にコケてしまいます。こうした時に、後ろから車が走っていると事故になることがあります。これを避けるためにも必ず空気を入れておいてください。

そして、「ベ」はベル。前の自転車、鳴っていますよね。今の自転車、さびついて鳴っていないことはないですか。いつも確かめておいてくださいね。でも、これはふだん鳴らすものではありません。危険なときに、皆に分かってもらうために鳴らすものなので、前の人をどかすために、どけどけという意味で鳴らしたりはしないでください。

最後は「ル」です。ルは何かということ、ルールを守ること。それはさっきも説明

していた、道の歩き方とか今のことを全部含めてのルールです。ルールのちょっと細かいことを言いますね。並進は、難しい言葉だけれども、2台以上、3台以上とか並んで走ること、それは道に飛び出すことになるので、必ず1列になるように走ってください。そして、2人乗り違反。皆お友達の自転車の後ろに乗ったりしていないですか。乗せてもらったり、危ないので、こういうのはやめてください。

次は、傘や携帯電話を使用するの運転、これも駄目です。これは片手運転になるので、バランスを崩しやすいです。こういうことのないようにしてください。

そして、無灯火違反。先ほども言ったけれど、暗いところ、夜は必ずライトを点けてください。遠くからでも車から見えるようにしてくださいね。

そして、信号無視。これももちろんみんな分かっていますよね。赤の時は絶対に通らないでください。

次は、一時停止違反があります。必ず交差点のところは止まってください。そして、安全を確認して通るようにしてください。急に飛び出してはいけません。

通行区分違反というのがありますが、道路の端に白い線がありますよね。その白い線は点線とか実線、長く延ばしている線とか二重線とか色々あるのですが、それで少し意味が変わってきます。走っても良い場所、走ってはいけない場所というのがあるので、また確認しておいてください。

そして、これらの危険行為を繰り返すと、大きくなった時、みんな講習を受けたり講習のお金を払ったりしなければなりません。こういうことがないように、今からルールを必ず習慣付けておいてください。

そして、これからようやく自転車に乗ります。自転車に乗る時のお約束があります。必ず自転車の左側に立ってください。そして、乗り降りをするようにしてください。もしこのときバランスを崩していると、左側に足が着いているので、左側にコケやすくなります。ということは、もしコケても後ろから走ってくる車、通ってきても怪我をすることがないですね。ぶつかりません。

これがもし反対、右側から乗るようになると、バランスを崩します。そうすると、右側にコケやすくなって、バーン、痛い痛い。こんな事故、みんな遭いたくないですよ。事故に遭わないように右を止めて左からの乗り降り、覚えておいてください。

2番目は、踏み出し始めは右足でということ、ペダル、右足が上に来るようにセットして、そして進んでいくのですけれども、この時もバランスをもし崩したら、左側によけると車が来ないから大丈夫。でも、また反対側の足でこいでしまうと、バランスを崩した

ときに、バーン、痛い。また事故になってしまいました。こんなことのないように気を付けてください。

3番目、出発前に確認してほしいのが右後ろです。必ず右後ろを今みたいに車が来るか来ないか確認してください。もし車が来たりバイクが来ていたら、通り過ぎるのを待つから、もう一度安全を確かめて出発してください。

そして、最後に皆とお約束したいことがあります。このマーク、見たことありますか。「止まれ」と書いていますよね。このマークのあるところでは必ず止まってください。危ない道路のところ、交差点、必ずこの標識があります。道に書いていることもあります。

ここで、子どもの交通事故が特に多いです。だから、「飛び出しはしません」と前に出していますけれども、これを守ってほしいので、みんなで一緒に言いたいと思います。まず私が言うので、その後に、皆で声を合わせて読んでください。

(皆で：飛び出しはしません！)

今日から守ってください。これで交通安全教室を終わりたいと思います。ありがとうございました。

#### 講評 (一財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之

大変熱心な事例発表で、まさしく皆さんが今活動されているのは、命の大切さ、命を守る、そういう面でものすごく崇高な仕事をやられているということがよく分かりました。それから、宇田川先生のお話は、話の導入の部分体をほぐす点で参考になったかなと思います。最後のまとめとして1点に絞ります。

実はこのブロック講習会に私が関わらせていただくようになったのは3年前だったと思います。それからずっと事例発表を見ている中で、聞いている中で常に「交通安全は家庭から」という言葉がいつも聞こえてまいりました。素晴らしい言葉だなと思っていたのですが、まさしくこれが、この「交通安全は家庭から」という理念が本当に大切な理念なのだということを感じるようになりました。

実は吉田瑩一郎という先生がおりまして、一昨年86歳で亡くなってしまったのですが、この方が文部省におられまして、教科調査官をやられて交通安全教育を担当していました。その手引書を、私は千葉から出かけて一緒にやるような状況もありました。この吉田先生の講演を私は何回も聞きました。その中で必ず言う言葉、言う場面があったのですね。

それで、先日ここに来る前に講演記録をひっくり返して、是非皆さんにこのことをお話

ししたいと思って、ここへメモしてきました。ちょっと読んでみたいと思います。この吉田先生というのは、文部省を退官して、それから日本体育大学の教授になって退官された方です。この方がいつも講演の時に話した言葉、それをメモしてきました。ちょっと読んでみます。

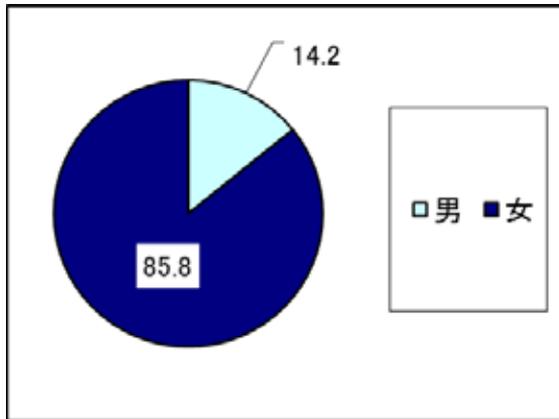
「磨き残しのない歯磨きを毎日励行している児童・生徒は、道路を横断する時の、止まる、確かめる、の行動定着の度合いが高いことや、食べ物に好き嫌いの多い子は自己中心性が強い傾向があり、飛び出しをしやすいといった研究があります。危険予測能力や自己統制など、望ましい生活習慣の確立によって形成されることが分かってきております。家庭の役割の大きさに改めて注目していきたいと思います」。このように言っています。

これを私は聞いて、色々なところで歯磨きをきちんとできない子は交通事故に遭いやすいという研究がありますよということを話してまいりました。このもとはこれです。この文章を私は何回も聞いて印象に残っておりました。結局、根本的なところに、家庭できちんとした基本的な生活習慣を確立すること、これが交通安全の基本の基本にあるのではないかと私は思っております。

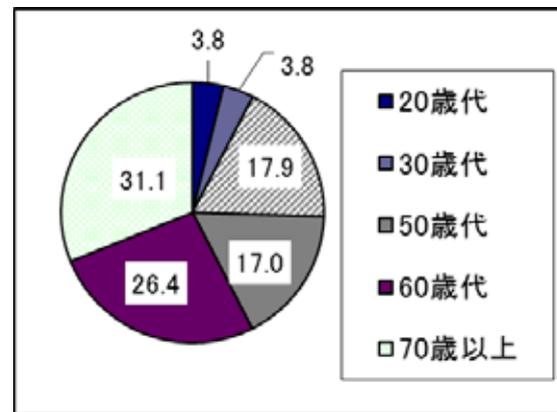
そういうことで、皆さん、毎日大変崇高な、献身的な活動をされておりますけれども、体に十分気をつけて、ぜひ頑張ってくださいたいと心から思います。それから、そういう仕事に関わっている、命に関わることに携わっている、これについて本当に心から敬意を表したいと思います。そして、エールを送って終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

### 3. アンケート集計結果

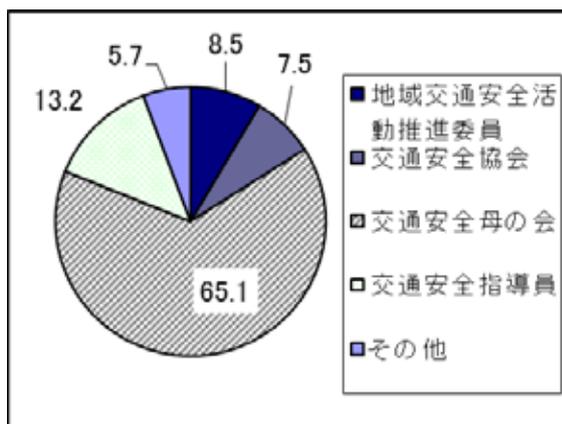
#### 1. 性別



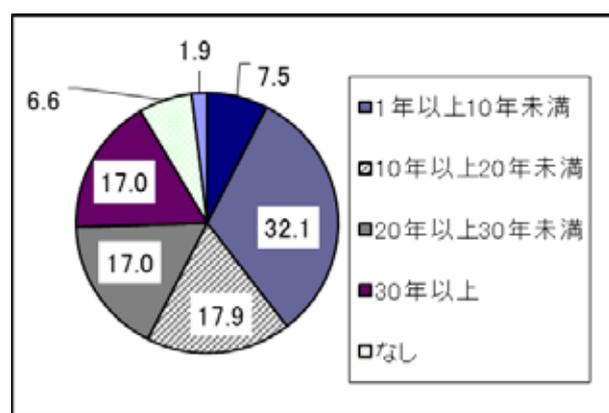
#### 2. 年齢



#### 3. 所属団体

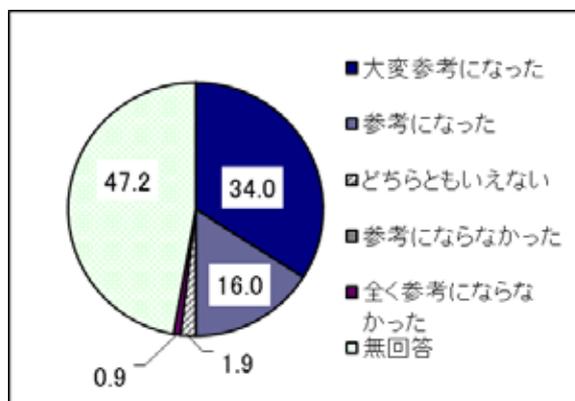


#### 4. 活動年数

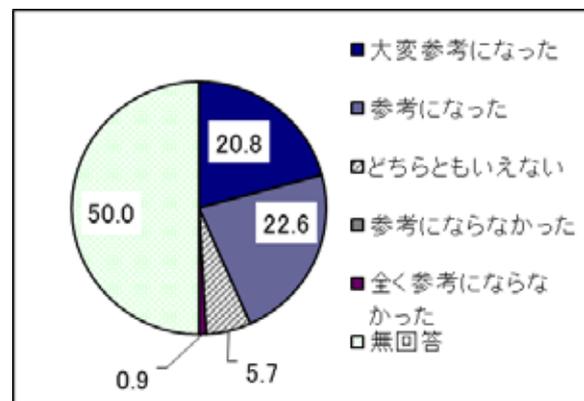


#### 5. 評価

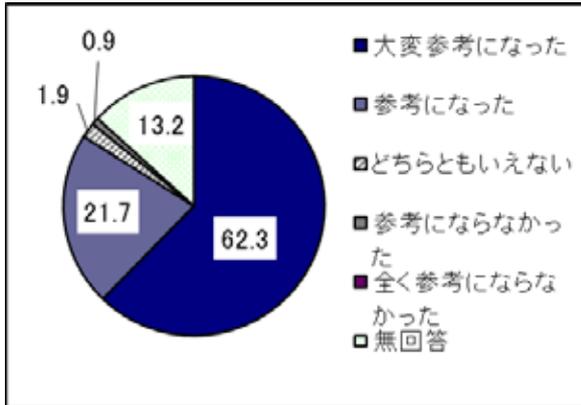
[講演 講師：鈴木春男先生]



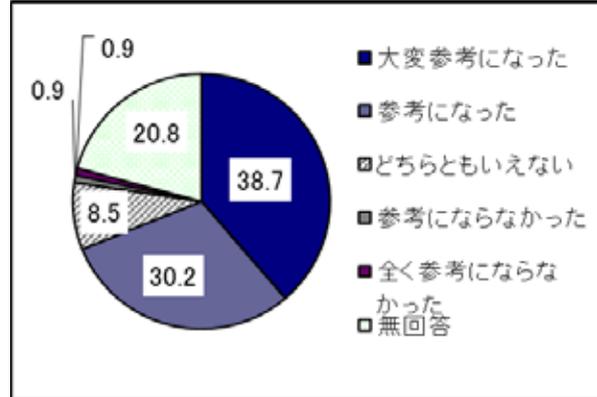
[グループ討議]



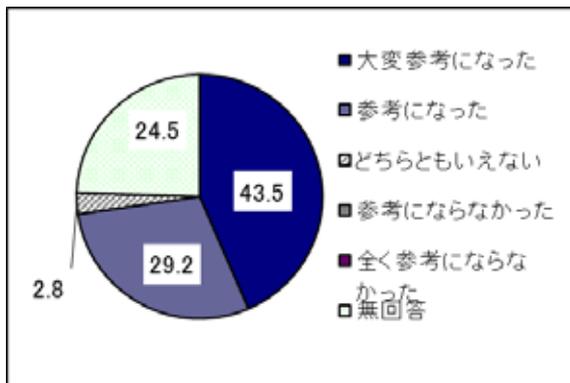
[講演 講師：宇田川光雄先生]



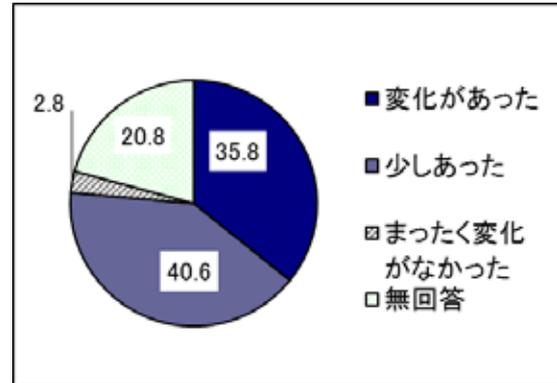
[活動事例発表]



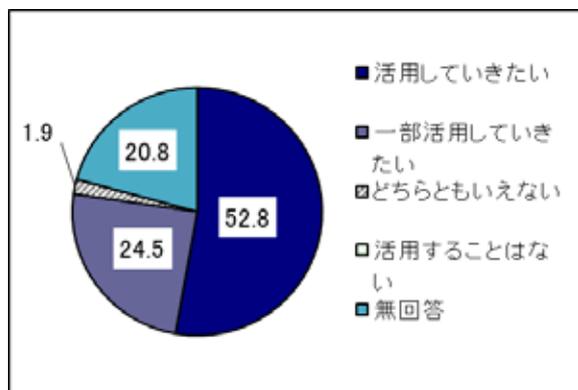
[総合評価] (講習会全体として)



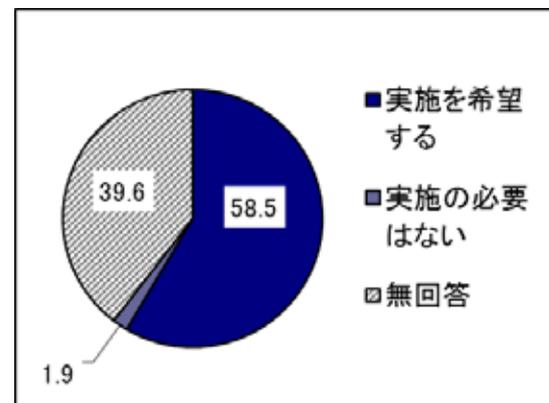
7. 講習会参加による意識の変化



8. 今回習った内容を今後の交通安全活動に活用するか



11. 来年度の開催について



## 6. 今回の内容以外で取り上げて欲しいテーマや内容

- ・ 自転車の交通安全指導について ( 3 )
- ・ いろいろな分野の先生方の話を聞きたい
- ・ 高齢者の事故多発について警察より現状と取り組みについて聞きたい
- ・ 中・高校生への交通安全教育や啓発方法
- ・ 子どもの交通安全教室の視察と研究協議
- ・ 交通指導上、してはいけない事  
( 例 : 交差点における危険予測させない、大人任せの見守り )
- ・ 交通事故の現状と具体的な対策
- ・ 集団登校から個々の登校における交通安全指導について
- ・ 高齢者の自転車防止対策について

## 9. 交通ボランティア活動に必要な知識や技術を向上させるのはどのような機会か

- ・ 講習会や勉強会の機会を多く持ち参加する事 ( 4 )
- ・ 本講習会に体験型の実技をセットしては ( 3 )
- ・ 実際の活動現場への視察研修 ( 2 )
- ・ 繰り返し活動し伝えていく。家庭でまず自身の子どもへ命を守る大切さを伝えていきたい
- ・ いろいろな地域や年齢の方と情報交換する機会があれば良いと思う
- ・ 自分たちだけの研修会ではなく、子供たちと向き合ってゲームをして対話することで、学ぶことがあると思った
- ・ 毎年「安全学級」を年に数回開催して勉強しています
- ・ 年 1 回のこの講習会を規模を縮小して年 2 回にして欲しい
- ・ 当県母の会では活動不便な地域に「出前教室」を実施しています。今後の広がり  
に期待しています
- ・ 若い母親の参加を増やしたい
- ・ 人を惹きつける話術、会話力の講座
- ・ 具体的な指導方法の講習会
- ・ 現場での指導経験を積む
- ・ 交通ルールは親世代の意識付けが必要。親子が集まる場所でゲーム感覚の指導が効果的だと感じた

## 12. 意見・要望

- ・講師の皆さんの講演がとても参考になり、今後の活動に役に立ちます(3)
- ・「交通安全は家庭から」という言葉はとても大切だと思います。今日学んだ事を今後子どもたちに伝えたい(2)
- ・大変有意義で勉強になりました(2)
- ・他府県との交流や活動状況がわかる良い機会でした(2)
- ・親の教育を充実するため交通安全教室を母子教室、妊婦教室として開催しては
- ・伝える技術の向上。自己啓発
- ・自転車に乗った友人の小学生が車と事故に遭い負傷しました。身近な事故を通じて交通安全活動の大切さを実感しました
- ・交通指導員相互の交流を図りたい
- ・時としてくじけそうになる気持ちも本講習会でまた頑張ろうという気持ちにさせてくれる事に感謝いたします
- ・コーディネーターの方のまとめがとても印象に残っています。最後まで気が抜けない研修会でした
- ・道路幅が4車線になっても以前と同じように横断する中高年の方が多い。道路状況の変化に対応できる意識啓発は必要
- ・もっと交流の時間を増やして欲しい。年2回の実施で会員を受講させたい
- ・この講習会は近畿6府県が交流できる機会であり、今後の活動の励みとなります。今後とも継続して欲しい
- ・グループ討議の報告が大変参考になりました

#### 4. 記録写真



開会挨拶（内閣府 金子参事官）



講演 鈴木春男先生



グループ討議



討議結果発表



講演 宇田川光雄



活動事例発表